

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370101960		
法人名	社会福祉法人旭川荘		
事業所名	グループホーム はなみずき		
所在地	岡山県岡山市北区祇園866		
自己評価作成日	令和2年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370101960-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和4年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接する旭川敬老園との連携のもと、安心してその人らしい生活が継続できるよう、一人ひとりの利用者の個性や状態に応じた専門的介護サービスを提供している。自然に囲まれた環境で季節を感じながら、穏やかに笑顔多く過ごしていただけるよう配慮している。また、入居者一人一人が、役割を持ち自分のペースで生き活きと生活できる環境づくりに務めている。利用者だけでなく、ご家族にとっても安心できる場であることを目指している。可能な限りはなみずきで生活が送れるように配慮しているが、入居者にとって適切な生活が確保できなくなってきた場合は、家族と話し合い納得した形で敬老園への住み替えを提案している。大きく環境の違う場所ではなく住み慣れた地域や環境で入居者もご家族も安心していただけるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営方針である「尊厳を維持して過ごせるよう専門的介護サービスを提供し、日常生活の自立へ向けた支援を行っていく」に沿った支援をしている。「個性」も理念に挙げ、一人ひとりのできる事や、得意な事に着目した支援にも努めている。一年間のスライドを見せてもらったが、日常生活を切り取った写真から利用者の楽しそうな様子や、生き活きとした表情が伝わってきた。利用者の入れ替わりがあり、本来のグループホームらしい活動もできるようになった。重度化してきている人も多いが、表情に変化がみられる等、良い方向に全体的な活性化が図られている。運営推進会議を通じてのヒヤリハットの報告・毎月の手紙、近況写真の送付等に対して家族から職員の対応に感謝する声が多い。家族アンケートは6項目で100%の高評価を得ており、結果からも家族が安心と信頼を寄せていることが見てとれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が家庭的な雰囲気の中で安心して、心豊かに、「尊厳」を維持して過ごせるよう、専門的介護サービスを提供している。生活を共にしながら機能低下を防ぎ、少しでも心身ともに「自立」へ向けた支援を行っている。	基本理念は、「個別性」と「尊厳」を掲げ、定期的 に確認している。年1回は、職員会議の議題として 取り上げ、合わせて倫理研修も行っている。職員 の意識付けと共有を図り、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	昨年に続きコロナウイルスの感染予防で面会も制限し、荘内 での大きな行事もなく出かける機会もなかった。個別ではあるが 散歩へ出かけたり、感染予防を行い荘内の公園での昼の市へ 出かけ短時間ではあるがホーム外の人との関わりをもった。ま た、月1～2回程度地域の幼稚園児が課外活動で通りかかる際 に声をかけてもらい、ホームの中からではあるが会話をしたり 手を振ったりして交流を続けている。	感染が減少した時期に、隣接施設の地域交流 ホールで行われた焼き芋パーティー・バスに乗ら ないバスツアー等の催しに参加した。窓越しに声 をかけてくれる幼稚園児達とお茶会を計画し、 交流を継続していきたいと、コロナ収束を待ち望ん でいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	広義の地域貢献・・・後継者育成の一助(実習生の積 極的受入)を担っていて受け入れる方向で話をしていた がコロナ感染の関係で実習は中止となった。 狭義の地域貢献・・・運営推進会議のメンバーに地域 の民生委員を加え、その方を通して認知症ケアについ てやコロナ関連の情報提供もしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	コロナウイルス感染予防の為、隣接の特養の大きな ホールを借り短時間ではありが開催をした。以前は会 議後、ホームでそのままご家族と共に昼食を食べて いたが中止している。会議内容・・・①事業所の現状報 告、②参加者からの質問・要望等に対する回答、③評 価への取り組み状況の報告。④その他コロナ関連の 情報提供。意見は職員会議で報告、共有しサービス向 上に結びつける努力をしている。	2か月毎に開催しているが、今年度はコロナ禍で2 回は書面報告となった。近況報告と共にヒヤリ ハット・事故報告を行い、参加者の意見を求めて いる。詳細・原因・対応・対策等の経過が把握で き、職員の意識の高さ・真摯な姿勢が伝わって くる。家族アンケートの結果からも、家族が高く評価 していることが窺える。	開催できない時は、民生委員や家族に議 事録を送付している。地域包括支援セン ター職員にも送付し、連携体制の構築に 努めて欲しい。地域の情報やアドバイスを 受け、サービス向上に繋げる取り組みに 期待を寄せる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	R3年度の運営推進会議はご家族が土日開 催の要望があり市町村の出席はなかった。 コロナ対策や加算等に関して書類関係のこ とでの問い合わせは何度も行い指導を受け た。	不明点があれば電話で質問し、助言や指導を受 けている。マスクや消毒液等の物品配布の案内 があり、協働関係のもとで感染防止対策に取り組 んでいる。地域包括支援センター職員とは関係性 の継続の為の方法を検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含 めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束禁止は当然のことと認識 していて、研修等を通じ具体的な行為につ いても理解している。	隣接施設との合同研修・ズームでの外部研修も あり、その都度伝達研修を行い、職員の共有認識 を図っている。尊厳保持を基本姿勢とし、行動制 限だけでなく、言葉による抑圧にも気を付けてい る。意識せず発する言動もあり、気になる時は 個別に話し合い、注意喚起を促すこともある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意 を払い、防止に努めている	事業所の基本理念は利用者の「尊厳」を守 ることであり、その事を徹底しているので虐 待は考えられない。加えて管理者は職員に 疲れ、ストレスが溜まらないよう勤務配慮、 コミュニケーションに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は成年後見制度についての研修に参加してはいないが、書籍等で成年後見制度について理解を深めるよう努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	令和3年度も2件、契約締結と解除があったが事業所の方針、家族との連携、ケア内容等を契約書、重要事項説明書に沿って説明し納得を得ている。コロナウイルス感染予防の為、対面での説明は控えたが都度、電話で説明を行いその後書面を送付し改定等の理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者とは、毎日のコミュニケーションを通じ要望を吸い上げている。面会の制限があり、家族とは対面で話せる時間が少なかったが、利用料等持参時を利用し意見・要望を伺っている。また、運営推進会議でもその機会がある。	日常の暮らしや、介助の場面で聞き取ることが多い。職員間で話し合い、要望を叶える方向で検討している。家族には相談を持ち掛け、意見や要望を聞くようにしている。運営推進会議では、家族の発言の機会を多く設け、意見の反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を行ない、意見交換を行っている。協議内容は事業所運営、入居者のサービスに反映させている。	職員会議では、部屋担当職員として必ず何か発言するよう求めている。客観的に観察し、発信できるスキルの高い職員が多いと管理者は感じている。重度化に伴い、業務の流れや時間の使い方を話し合い、夕食材料の形態変更を検討した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者には時給に反映させ励みとしている。職員個々の個性を活かせるよう役割分担している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は大きな研修に参加することが困難だったため、荘内研修やウェブ研修に参加して職員会議での伝達研修に切り替え少しでも研修できるようにした。また、事故発生時には口頭やノートにて注意喚起や必要に応じて個別に対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	敬老園との合同の研修会などに参加し、はなみずき以外の方と交流できる機会をつくっている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・計画作成担当者を中心に、介護者は日頃からコミュニケーションを通して関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在までのご本人との関係、ご家族の不安や要望をお聞きした上で、施設として『出来る事』『不可能なこと』『努力してみること』『家族に協力してもらいたいこと』等を率直に話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接でご本人・ご家族等から得た情報を元に、職員間で情報共有し、支援計画作成をしている。サービス開始後は、修正点を会議で検討し、サービスに反映している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一部でも「出来る事」を強みと捉え、食事の準備・盛り付け・味見・片付け等の可能な部分や洗濯物たたみ、掃除、庭の手入れ等日常生活全般において少しでも出来ることを利用者と共に行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時及び定期的に、日常生活の様子をご家族に伝え、主として家族にしか出来ない精神的支柱の部分を家族の役割として協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会について制限が多かったが荘の方針に従いながら、窓越し面会や外で離れての面会は日中ならいつでも出来るようにして、ホーム内へ入っての面会は時間制限や手洗い、検温、うがいを実施していただきながら継続した。	全体で徹底した感染防止対策をとってきた。一律に禁止するのではなく、感染状況を見極め、条件をクリアしていれば、関係が途切れないように支援をしている。1泊で自宅に戻り、結婚70周年の祝いをした利用者もいる。売店や旭川荘内施設での馴染みの人や場所との関係性も大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者・職員全員が、日常生活の多くの時間をリビングで過ごすため、意識することなく常に会話があり、自然に入居者同士の関わり合い・人間関係もできている。テーブルやソファでの席に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療ニーズが高くなり退所となつて特養へ移られた方は様子伺いをするなどしている。感染予防で特養のユニットへ立ち入ることが困難だったが、特養からのケアについての問い合わせについて答えたり、こまめに住み替え後の様子の報告を受けスタッフに伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中から、ご本人の思いや意向の把握に努めている。また、ご家族からの情報の下、ご本人の趣味・嗜好等を取り入れ、日常生活に生かせるよう努めている。	ピザの広告を切り取り、口にした人がいた。職員が「よく食べに行った」と聞いた家族との会話を思い出し、ピザパーティーをして喜んでもらった。気付くことが大切であると捉え、ヒヤリハットからも思いを把握し、次に繋げる支援ができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族との話し合いの中から、過去の体験や現在の思いを汲み取った支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの1日の出来事・状態、関わりを記録し、職員全体で共有している。また、日課を作らず、利用者の状態、意向の中から1日の過ごし方が自然に行われている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議での話し合いや部屋担当からも話を聞いて、利用者の日常生活の中からニーズを把握し、モニタリング資料も加えたものを検討、更にご家族の意見も伺いながら介護計画を作成している。	担当職員は、事前にカンファレンスの要点・意見をまとめ書面で提出している。今できる事が継続していけるように、優先順位に挙げ心身の自立を目指すプランの作成に努めている。その人の全てが分かるアセスメントシートを作成し、活用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の状態の変化や暮らしの様子を日誌・個人記録・申し送りノート等の記録や職員会議での意見交換から、職員が情報共有し、日々の介護に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設規模が小さく小回りがきくため、家族と連携した柔軟な取り組みがその時々で出来る環境下にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は感染予防の為、併設施設の行事などへはほとんど参加さきなかったが感染がおちついている時期には少人数で参加し他施設との交流も行った。職員や実習生と近隣を散歩し、四季の移り変わりを楽しんだり地域の人との関わりを持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による毎週の回診、又、特変時にはその都度往診を依頼するか通院している。また、回診時以外で体調不良があった場合はオンコールで対応、指示してもらえる。	ほとんどの人は、旭川荘内の療育医療センター医師を主治医としている。他医療機関を受診する人もいるが、コロナ禍で受診を控え、健康診断は旭川荘内で受けた。医師・看護師とも24時間の連携体制が整い、医療面での安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な変化を見逃さないように、毎日バイタルチェックを行い、早期発見に取り組んでいる。体調変化があれば、主治医や訪問看護ステーションへ連絡し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には支援方法に関する情報提供を行う。お見舞いができない為、病状の把握が困難ではあるが退院が近くなったと連絡があった場合、こまめに連絡し情報収集に努め、都度、職員に情報を伝達して退院日に向けて準備をしている。看護師・医師、リハ職等から、直接話を聞いたり指導を受け、得られた情報は、職員間で共有し退院後、職員もご本人・ご家族も不安なく適切なケアができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合のあり方について説明、納得していただいている。終末期には、本人・家族の意向を重く受け止め、随時、家族・医療機関と連携をとり、施設としてできる限りの対応が取れるような体制としている。体調に変化があった場合には都度、嘱託医とご家族とで面談を行い、状態の説明や今後の過ごし方について面談をしている。ADL低下がみられた場合は隣接の敬老園より作業療法士を派遣してもらい車いすの選定、ポジショニングの検討等を依頼し一緒にケア内容の見直しをしている。	2月に、入居時より「はなみずきで最期を迎えたい」と希望していた利用者の看取りを経験した。医師・看護師の手厚いサポートがあり、職員も安心して取り組むことができた。家族にも泊まり込んでもらい、濃密な家族との時間を大切にしたい。研修を行い、家族の気持ちに寄り添うことができるようにと話し合った。家族から「きちんとお別れができ良かった。悲しいがすがすがしい」との言葉を貰った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時対応マニュアルを作成し、食中毒・インフルエンザ等の予防の周知徹底を図っている。又、救命救急法の研修会にも随時、参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、定期的に法人・併設施設と合同で利用者とともに、防災訓練(地震・水害・消火器)を実施している。	グループホーム内でも、日中・夜間帯を想定した火災時避難訓練を行っている。避難経路の確認や設備点検を定期的に行い、課題や反省点等を話し合い、確実な避難に繋げている。収納箱に保管されているヘルメットを、壁掛けにしてはどうかと検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個々の生活歴、性格等を考慮し、言葉遣いに注意を払っている。また、個人情報の管理を徹底し、プライバシーに関わるような内容・話題には触れないようにしている。	コロナ禍で外部の目が無い今が振り返りの時期でもあると考え、会議で取り上げる予定でいる。馴染みの関係から親しくなり、言葉遣いに問題はないか・尊厳やプライバシーは守られているかどうかを提起し、職員間の意識付けを図っていく。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者個々に合わせた声掛けをし、話しやすい雰囲気づくりをしている。特に口数が少ない方には表情などにも留意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースは異なっているので入居者本位の観点から何かを強要するようなことはしていない。その日の状態を把握し、穏やかに過ごせるよう留意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の着用の洋服は一緒に選び、おしゃれ感覚を失わないようにしている。また、日々の整容には留意している。化粧も自ら出来なくなっても起床時に職員が化粧をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・味付け・片付け等の可能な部分は一緒に行なっている。また、利用者同士の関係性を十分に配慮した席の配置とし、どの利用者も楽しく食事できるように心がけている。また、季節や行事に合わせた食材や献立を取り入れている。	季節の食材を使ったバランスの良い食事が提供されている。朝食はパン食を選ぶこともでき、誕生会は希望のメニュー聞き、好みに合わせて作っている。食事を大切な日課の一つと捉え、できる事で力を発揮してもらえるよう、盛り付けや味見をして貰っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の少ない方には、食べたいものを食べたいときに召し上がって頂けるようにしている。又、水分摂取には特に注意し必要量の確保に努めている。家族にも摂取状況等、こまめに報告し必要に応じて栄養補助食品やジュース等の嗜好品の購入依頼をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一部の入居者は訪問歯科を利用し定期的に専門的なフォローを受けている。職員もブラッシング等について指導を受け個々の状態に合わせて口腔ケアを行なっている。その他の入居者に関してはご家族の付き添いで歯科受診行っている。また、介護用品(スポンジブラシやポイントブラシ等)はご家族に必要性をご説明し購入していただいている。就寝前に義歯を、洗浄剤を使用し清潔を保っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録から排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。さりげなく声掛けし、自尊心を傷つけないよう配慮している。会議等で、失敗が多くなった入居者に関してはトイレ誘導の時間の検討等をし、必要に応じて紙下着等の提案を行いご本人やご家族にも説明し納得した上で安心していただける支援(又はサービス提供)を行っている。	トイレでの排泄はできないと決めてしまわず、介護度の高い利用者も定期的にトイレ誘導している。ケース会議等で、一人ひとりの状況の変化に合わせた排泄用品の検討を行っている。居室内のポータブルトイレを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ薬に頼らないようにする為、繊維質の多い食材を使用した副菜やヨーグルトをメニューに入れている。水分補給にも気を付けて、自然排便を促すようにリラックスをしてトイレへ座れるようにしている。緩下剤も利用しているが、排便状況を観察し囑託医と服薬回数や量を相談してこまめに調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人が拒否されたり、前日の不眠、体調不良の場合を除き、概ね2日に1回を基本に入浴を行なっている。入浴出来ない時は、清拭や足浴などの対応を行なっている。	火曜日を除く毎日が入浴日となっており、柔軟な対応ができ、ゆっくり入浴を楽しんで貰っている。重度の人が増え、手の届く場所にナースコールを設置し直した。無理せず、すぐに助手を呼ぶことができ、慎重で安全な支援提供に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は食堂・居間過ごされる方が多いが、ベッドで横になられる方もおられる。日中は状況に合わせて1人掛けソファに座っていただき下肢の挙上・保温等を行い、リラックス出来るように配慮している。夜間、寂しさを訴える方には、話し相手になり寂しさ・不安を取り除いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理ファイルを作成し、回診・通院で変更があれば送りノートに記入し、職員全体で把握するようにしている。また、服薬時は職員が必ず立ち会い確実な服薬を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	若いころの経験を活かし、家事・庭の手入れ・洗濯物たたみ等を役割としてされている。また、塗り絵、トランプ、歌、散歩など、その方が好きな楽しみの時間を過ごすことができるようにして、時に職員も一緒に入れてもらい楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防のため、今年度はほとんどホーム内から出ることがなかったが施設周りの散歩、売店への買い物、ご家族との散歩等が主なものであった。また、受診の帰りなど利用し荘内を散歩をして花等を見て気分転換が図れるよう配慮している。	旭川荘内は広く、道路や花壇等も整備されており、安全に散歩が楽しめる。売店に出かけたり、ホーム前で移動販売のパン屋での買い物を楽しんだりしている。公園で開かれる月1回の昼の市に行くこともある。車いすの人にも散歩を楽しんで貰おうと、歩行器を使用して歩く人と一緒に外に出ている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は事務所でお預かりし、一緒に買い物等の場合は、ご本人の財布を持って出かけ楽しんでいただけるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時、必要時には職員と一緒に電話するように心がけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光や音、机の配置等に気を配っているが、なにぶん9人で暮らすには少し手狭な空間なので、ゆったりとした生活環境とは言い難い。席に配慮することで落ち着いて過ごすことができるようにしている。	快適な温度・湿度・換気に気を配っている。1人用のソファ・大きなソファがあり、脚上げの必要がある時等は状況に応じて居場所を変えているが、一人ひとりが落ち着いて過ごせるように考えている。事務所も居場所として開放し、不穏な時はゴム印押し等の仕事を手伝って貰っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	変化するその時々、利用者の気持ち、利用者間の人間関係を察知し、過ごしていただく場所を変えて配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具・寝具・装飾品などを持ってきていただいている。新たに必要となった場合は、ご家族に説明して持ってきていただくようにしている。	ふらつきや転倒予防を考慮し、ヒヤリハットも参考に安全な動線を確保して、家具の配置を決めている。以前住んでいた場所とできるだけ同じような環境で、生活習慣も継続できるようにと、家具や生活用品の持ち込みを依頼している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札、トイレに表示をつけて場所を確認できるようにしている。ベッドの位置や、家具の配置を工夫することで、安全に歩行できるようにしている。		